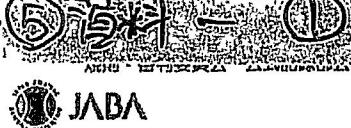


# 公式記録確認シート



公認確認シート No. 2017\_04

公式記録規則区分：9.00 記録に関する規則

公認野球規則 : 5.04 (b) (4)

- 確認シート作成日： 平成 年 月 日
- 確認シート作成対象試合等月日 平成 年 月 日
- 確認シート作成対象試合 大会名等 平成 年 月 日
- 確認シート作成、報告者等： 日本野球連盟 判別委員会 公式記録部会 沖原和之

プレー状況	公式記録員判定、判断	スコアーシート記載	確認事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム(先攻) ■チーム(後攻)	2017年度 アマチュア野球内規 アマチュア野球規則委員会  アマチュア野球内規について、下記のとおり追加・変更を行いましたので通知いたします。  1) アマチュア野球内規を併せて変更した。 2) 旧規則在2016年度公認野球規則の条文の前に変更した。 3) アマチュア野球内規②にバッタースポックルールを新規に追加した。ただし2016年度1年間は猶予期間とする。(ペナルティは警告までにとどめる。) 4) アマチュア野球内規④、危険防止(ラフプレイ禁止)ルールの一部を変更した。	1) アマチュア野球内規②バッタースポックルールの内容が追加された。  なお、猶予期間終了のため、本年度よりペナルティを適用する。 2) アマチュア野球内規④危険防止(ラフプレイ禁止)ルールの一部を変更した。	ペナルティ (1)・(2)  打者が意図的にバッタースボックスを離れてプレイを避けた場合、かつ(1)の(1)～(9)の例外規定に該当しない場合は、または、打者が意図的に“ホームプレートを回むき土の部分”を離れてプレイを避けた場合、かつ(2)の(1)～(8)の例外規定に該当しない場合は、  球審は、その試合で2度目までの違反に対する警告を出す。 3度目からは投手の投球を待たずにストライクを宣告する。  この場合はボールデッドである。もし打者がバッタースボックスまたは“ホームプレートを回むき土の部分”の外にとどまり、  さらにプレイを遮断させた場合、球審は投手の投球を待たず、再びストライクを宣告する。 3 なお、球審は、再びストライクを宣告するまでに、打者が正しい姿勢をとるための適宜な時間も認める。(規則5.04b (4)(A)、同(B))	ペナルティ (1)・(2)  3度目からは投手の投球を待たずにストライクを宣告する。  さらにプレイを遮断させた場合、球審は投手の投球を待たず、再びストライクを宣告する。  自投球はカウントしない。 自家擲に抜けた場合に、球数としてカウントする。
2016年度 アマチュア野球規則委員会  アマチュア野球内規について、下記のとおり追加・変更を行いましたので通知いたします。  1) アマチュア野球内規を併せて変更した。 2) 旧規則在2016年度公認野球規則の条文の前に変更した。 3) アマチュア野球内規②にバッタースポックルールを新規に追加した。ただし2016年度1年間は猶予期間とする。(ペナルティは警告までにとどめる。) 4) アマチュア野球内規④、危険防止(ラフプレイ禁止)ルールの一部を変更した。				

# 公式記録確認シート



公認確認シート No. 2017\_01

公式記録規則区分：9.00 記録に関する規則

公認野球規則 : 5.09(b) (9) 【原注】

- 確認シート作成日： 平成 年 月 日
- 確認シート作成対象試合等月日 平成 年 月 日
- 確認シート作成対象試合 大会名等 平成 年 月 日
- 確認シート作成、報告者等： 日本野球連盟 判別委員会 公式記録部会 沖原和之

プレー状況	公式記録員判定、判断	スコアーシート記載	確認事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム(先攻) ■チーム(後攻)	2017規則改正  5.09 (b) (9) 【原注】を追加する。  【原注】後位の走者の行動または前位の走者の行動によって、後位の走者は前位の走者に先んじたとみなされる場合がある。  例— 1アウト走者二・三塁のとき、三塁走者(前位の走者)が本塁へ進塁しようとして三塁木塁側のランダウンプレイとなつた。二塁走者(後位の走者)は前位の走者がタッグアウトになると思い、三塁に進んだ。三塁走者は捨投されずに、三塁に戻り、左廻方向に壁を踏み越えてしまった。このとき、後位の走者は、前位の走者の行動によって前位の走者に先んじたことになる。結果として、後位の走者はアウトとなり、三塁は占有されていないことになる。前位の走者が三塁を放棄してアウトと宣告されていい限り、前位の走者はアウトとなる前に三塁に戻れば三塁を占有する権利がある。5.06 (a) (1) 参照。	(二) 2017規則改正 5.09 (b) (9) 【原注】を追加する。  【原注】後位の走者の行動または前位の走者の行動によって、後位の走者は前位の走者に先んじたとみなされる場合がある。  記録の例題、記載例として  【前位の走者の行動によって、前位の走者が先んじたことになる。 結果として、審判員が「追い越し」として後位の走者はアウトと判定した場合】  記録の例題、記載例として  【前位の走者の行動によって、審判員が三塁走者が「走塁放棄したと判断」して、三塁走者をアウトと判定した場合】	(二) 4番打者の打撃により、三塁走者が抜まれて三塁ベースを越え 「追い越し」として判定された  (三) 「追い越し」として後位の走者はアウトと判定  (四) レ 記録の例題、記載例として  4番打者の打撃により、三塁走者が抜まれて三塁ベースを越え 「走塁放棄」として判定された X記号は妨害、放棄で使用  「走塁放棄」として三塁走者はアウトと判定  FC 塁線間の進塁	審判員が ■「追い越し」として後位の走者はアウトと判定した場合 ■「走塁放棄」として、走者をアウトと判定した場合 ■走者をアウトとなる走者に向かってアウトのジェスチャーを行う 中木規則・審判委員長は上記事項について確認した 上記の審判員のジェスチャーにより「追い越しアウト」「走塁放棄アウト」が判明できるので、特に観客への説明は省略していい。  FC 塁線間の進塁

## 2016\_12\_16 アマチュア野球規則検討会



全日本 320-11

2016/12/16

一般財団法人 全日本野球協会  
アマチュア野球規則検討会

◆◆◆【公式記録部会からの問い合わせ、回答、確認事項等】◆◆◆

- ◆ 2016.12.16 マチュア野球規則検討会 2017年度規則改正の件
- ◆ 下記規則改正について、規則の部分について確認させていただきます。
- ◆ 公式記録の問題で、多くの事例があるわけではなく、打点・得点・自責点・進塁に当たっての要因をまとめて確認します。
- ◆ NPBへの取扱いを考え方を確認

NPB 記録データ管理部

BFJアマチュア野球規則検討会 委員長

BFJアマチュア野球規則検討会 記録部会

山川 yamakawa

中本 nakamoto

海原 kelhara

2017/1/11

2017/1/11

2016/12/18

公式記録部会 検討内容、適用規則等 及び NPB担当意見等

会議議題内容と検討内容等

議題  
2017年度規則の改正について  
1. 原文との相違点その他  
①  
②2. 2016年OBRの改正点  
①  
②⑤ 5.06(b)(3)(C)および同【原注】、5.09(a)(1)【原注】、  
5.12(b)(6)の修正  
：改正で意見一致（公認野球規則 P34, 51, 80）  
野手が正規の捕球後にダッグアウトまたはボールデッドの個所に込み込んだだけで（例れ込まなくても）ボールデッドとなり、走者には1個の星が与えられることになる2017年度規則の改正について  
項目 2. ⑤については、改正で意見一致で問題なしです。

2. 2016年OBRの改正点

⑥ 5.06(b)(3)(C)および同【原注】、5.09(a)(1)【原注】、  
5.12(b)(6)の修正  
：改正で意見一致（公認野球規則 P34, 51, 80）  
野手が正規の捕球後にダッグアウトまたはボールデッドの個所に込み込んだだけで（例れ込まなくても）ボールデッドとなり、走者には1個の星が与えられることになる

★検討事項【公式記録の扱いについて】

走者が3里にいた場合、野手が正規の捕球後にダッグアウトまたはボールデッドの個所に込み込んだ（例れ込まなくても）場合、走者には安全逃げ権が発生し1個の星が与えられることになり得点となる。

その場合の、記録の扱いについて。

1. 打点を与えるか否かは、打者の打球結果に起因すること、また安全逃げ権が発生したということは、野手のミスによることが要因であるという考え方もあることから  
◆ 1個の星が与えられることにより得点となった場合  
◇ 打者の打球結果は「野手に捕球されたことでアウトとなったことで失点しているので打点は与えられない。  
◇ 安全逃げ権の発生、安全逃げ権は守備側のミスや反則行為に対するペナルティー、よって野手の失策による逃げと考へる。2. このような状況による逃げを失点とすべきか否か、身を抵して1つのアウト、捕球した野手に失点は記録すべきではない。  
◆ 1個の星が与えられることにより得点となった場合  
◇ 1つの安全逃げ権は、打撃「フライアウト間の逃げ」として失点は野手につけない。  
◇ 打者の打球結果、「フライアウト」間に得点したので打点を与える。上記の記録に関しての考え方を NPB等に確認したい。  
確認後、その記録の取り扱いをアマチュア各団体と情報共有し、公式記録の統一性を推進したい。

◆◆◆【公式記録員の扱い、考え方について】

1. 打点を与えるか否かは、打者の打球結果に起因すること、また安全逃げ権が発生したということは、野手のミスによることが要因であるという考え方。  
逃げの要因は、打者の打球結果に起因するものではなく、「プレー中の野手がボールデッド区域にボールを持ったまま入った」ことが要因である。  
安全逃げ権の発生、安全逃げ権とは守備側のミスや反則行為に対するペナルティーと考へる。  
打者の打球結果は「野手に捕球されたことでアウトとなった」ことで失点している。

2. このような状況による逃げを失点とすべきか否か、身を抵して1つのアウト、捕球した野手に失点は記録すべきではないという考え方もあり、この考え方を基に記録を決定する。

★【2017/01/11(水)「プロアマ合同規則委員会」にて】

★確認事項 NPB【日本野球機構 記録データ管理部】

身を抵し、佐藤を届けたことなく投げたプレーに対して、またまた捕球後の扱いでボールアップの箇所に入ってしまった1回安全逃げ権を与えてしまったプレーに、好プレーとミスプレーという相反するよう二つの記録は与えない、つまり「失点」は記録しない。  
身を抵した打球に対する故意を表し、失点はつけないという考え方で NPBは統一を図っており、記録としての取り扱いは、

打者には打点を与え、逃げは「フライアウトの間の逃げ」として指揮記録している。

★最終確認と情報共有

身を抵したプレーに対して失点を表し、安全逃げ権を与えてしまったことに対して、相反するような失点は与えない。  
長年に渡る記録実績や勘定等も踏まえて取り扱ってきた NPBの考え方をアマチュア間も踏襲し、情報共有をとした。記録としての取り扱いは、  
打者には打点を与え、逃げは「フライアウトの間の逃げ」とする。

## 公式記録確認シート

公益財団法人 日本野球連盟

公式記録掲載区分：

公開野球規則 6.01 防害

公開確認シートNo.

■確認シート作成日： 平成28年 6月 20日

■確認シート作成対象試合等月日：

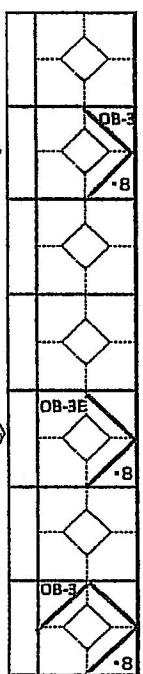
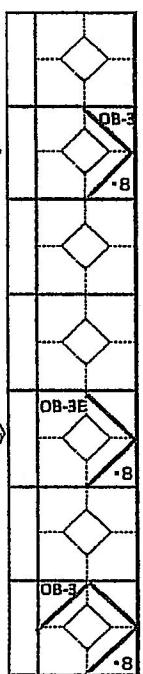
平成 年 月 日

■確認シート作成対象試合 大会名等：

■確認シート作成、報告者等：

日本野球連盟 東北地区連盟

秋田県野球連盟 高橋政記

プレー状況	公式記録判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム(先攻)	公式記録			記録判断、スコア記載。記入にあたっては以下の手順と省略します。
■チーム(後攻)	以下の判断、記載でよいか			
確認事項				
1. 無死・走者なし 打者は、左中間に長打を放つが 一塁を通過後に一塁手と衝突・接触するも、二塁へ到達。 審判員は、走塁妨害を宣告しプレー終了後にタイム。	■打者に二塁打を記載 ■走塁を妨害した一塁手に「オブストラクション」OBを記録する。 ■この「オブストラクション」により、一塁手には「失策」を記録しない。		【審判員の判断】 規則、6.01(h)の(2)により、審判員はランナーの不利益を取り除くように適宜な処置を施す、三塁への進塁を認めず二塁に留めた	審判員は、6.01(h)の(2)走塁を妨げられたランナーに対してプレーが行われていなかった場合には、すべてのプレーが終了するまで試合は続行される。 審判員はプレーが終了したのを見届けた後に、はじめて「タイム」を宣告し、必要があれば、その判断で走塁妨害によって受けたランナーの不利益を取り除くように適宜な処置をとる。
走塁妨害による不利益が発生したか否かを確認し 「二塁に止めた」三塁への進塁は認めなかっただ(防害による不利益はなかった)	※審判の協議の結果 三塁への進塁が認められた場合は ■二塁打と一塁手の防害が記録される。		【公式記録】 打球の記録としては、規則 9.06 単打・長打の決定 (e) により、二塁打とする。 走塁妨害をした野手の失策の扱いは、規則 9.12 失策 (c) 【原注】により、「失策」記録なし。 スコアシートへの記載、記入 結果的には、オブストラクションが無かったものとして処理されることになるが防害があった事実を記入するため『OB-3』を記入する。	【公式記録】 打球の記録としては、規則 9.06 単打・長打の決定 (e) により、三塁打とする。 走塁妨害をした野手の失策の扱いは、9.12失策 (c) 【原注】により「失策」記録なし。 審判員が 6.01(h) の規定に基づいて打者走者に星が与えられた場合は、打者走者が進んだ塁によって二塁打・三塁打・本塁打とする。 このことから、防害による進塁ではなく、三塁打として記録する。
			スコアシートへの記載、記入 結果的には、オブストラクションが無かったものとして処理されることになるが、防害がめったに失策を記入するため『OB-3』上記例と同様に記入する。	

プレー状況	公式記録員判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム(先攻) ■チーム(後攻)	※審判の協議の結果  三塁への進塁が認められた場合は  ■二塁打と一塁手の妨害が記録される。		【規則適用の考え方の訂正】  「公式完全マニュアル」記載是正・修正・追筆等に関する事項  上記同様項目中、下記内容にて「走塁妨害に係る考え方」にて、下記の情報共有部があるので訂正する。  ■マニュアルにおける「妨害」に関する項目が物足りない。 ■審判員が妨害と認め、妨害により進塁できなかった塁まで、その判定により進められた場合は、 事実として次回には進塁しておらず、判定の進塁理由が妨害としているので失敗として記録する。 ■長打性の安打を放ったが、走塁妨害により反打として認められない不条理はあるが、実際妨害がなければ進塁できたか否かは予測であり不明である。 よって、審判員の判定（妨害による進塁指示）をもって心筋的要素を含まないで記録は、二塁打と妨害による進塁して指揮する。	【上記考え方の訂正】  ■公式記録 規則 9.06 単打・長打の決定 (a)項に、 6.01 (h) の規定に基づいて、2塁または3塁の塁、あるいは本塁が与えられた場合に、打者走者が進んだ塁によって、それぞれ二塁打、三塁打、本塁打と記録する。 とおり、打者への不利益の解釈と記録・審判の意見相違の解消が図られているものであり、記録上の規則で定義されているので、 審判員が 6.01 (h) の規定に基づいて打者走者に塁が与えられた場合は、打者走者が進んだ塁によって二塁打・三塁打・本塁打とする。 このことから、妨害による進塁ではなく三塁打として記録し 9.12 失策 (c) 【原注】 により「失策」の記録なし。  以上考え方の訂正、是正を情報共有します。
				2016.07.20 規則・審判委員会 公式記録部会 部会長 海原和之

**式記録確認シート**

公益財団法人 日本野球連盟

■報告日：  
■報告者：  
■連絡先：

確認分類	<input type="checkbox"/> 野球規則全般に関する事項
	<input type="checkbox"/> 野球規則（記録事項）に関する事項
	<input type="checkbox"/> スコアーシート記載に関する事項
	<input type="checkbox"/> その他

日本野球連盟 公式記録委員会 事務局	連盟記録部会 確認年月日等 空欄可有欄	記録部会役員 確認年月日等 空欄可有欄	規則審議委員会 空欄可有欄	各地区連盟等 情報共有年月日

プレー状況	公式記録員判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■年月日:2016.07.22 ■大会名:第87回都市対抗野球 ■チーム:鎌倉市 - 春日井市 四回戦 ホンダ鎌倉	8番・安慶名の打球に対し  公式記録員は、 三振走者をアウトの対象者とし、 守備を行ったと判断	3番 4番 5番 6番 7番 8番 9番		ただ単純に 打者が打球をしたからと いって アウトにしようとした対象者を 打者とはしない。 星上の状況、アウトカウント、打球の 方向、強弱、守備者の動きをよく見 て判断
3番・伊藤 サードゴロ。1アウト 4番・石井 センター前ヒット。 1アウト一塁 5番・山本 フォアボール。 1アウト 一、二塁 6番・庄司 センター前ヒット。 1アウト満塁 7番・飯田 レフト前ヒット。 三塁ランナー 得点、先制 1アウト満塁 8番・安慶名 内野ゴロをセカンドが タイムリーエラー。 三塁ランナー生退。 1アウト満塁 9番・杉本 セカンドドライバー。 2アウト満塁 1番・大城戸 ファーストゴロ。 3アウト	結果的には、 タイムリーエラーとなつたが、 アウトにしようとしていたことを 確認した。		アウトにしようとした対象者を 守備側の野手の動きをよく見て判断	【参照】 9.16 自責点・失点  守備側が相手チームのプレ ーヤーを3人アウトにできる 守備機会をつかむ前に…
			安易に打者に失策を記録すると 以降に 打点を記録するか否か 投手自責点の有無等	
			まったく違う事象、結果が記録される。	

# 公式記録確認シート



公認確認シート No. 2017\_11

公式記録掲載区分：9.00 記録に関する規則

公認野球規則：その他

■ 確認シート作成日：

平成 年 月 日

■ 確認シート作成対象試合等日

平成 年 月 日

■ 確認シート作成対象試合 大会名等

平成 年 月 日

■ 確認シート作成、報告者等：

日本野球連盟  
規則・審判委員会 公式記録部会 海原和之

プレー状況	公式記録判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム（先攻） ■チーム（後攻）	■選手交代とビジョン表示の要望		■指名打者への代打、代走について 指名打者への代打、代走の際のアナウンスが聞きづらいこともあり、ビジョンの衣服が「新入り」である。	■以前から本件は、研究委員からの要望・意見提出時にあつた件である。
■指名打者への代打、代走と『現役ドーム、ビジョンの表記』について	飲食、声援等にて守備交代時のアナウンスが聞きづらいこともあり、ビジョンの衣服が「新入り」である。  指名打者への代打、代走時のビジョン表示についてのお問い合わせ		口指名打者に代打 ■ビジョン表記 ⇒ 「H」⇒ D」	口前の回答は 阪神事務局長から、「指名打者の代打・代走は打撃の完了（出塁したかどうかは問わない）、代走者は出塁した時に指名打者となる」との見解を受け、現在に至っている。
5.10 プレーヤーの交代	(a) プレーヤーの交代は、試合中ボールデッドのときなら、いつでも許される。代わって出場したプレーヤーは、そのチームの打撃順に従って、迎えたプレーヤーの順番を受け取って打つ。  (b) 估量は、プレーヤーの交代があった場合に、直ちにその旨を球審に通告し、あわせて打撃順のどこに入れるかを明示しなければならない。  (前注) 守備側チームのプレーヤーが2人以上同時に代わって出場したときは、その代わって出場したプレーヤーが守備順位に並く前に、監査は直ちにそのプレーヤーの打撃順位を球審に示し、球審はこれを公式記録員に通告する。  この通告がなかったときは、球審は、代わって出場したプレーヤーの打撃順位を固定する権限を持つ。  ダブルスイッチ（投手交代と同時に野手も交代させて、打撃順を入れ替える）の場合、監査はファウルラインを超える前に、まず球審に複数の交代と入れ替わる打撃順を通告しなければならない。監査がたまにコーチがファウルラインを超えた後、それ以後ダブルスイッチはできない。  (c) 交代通告を受けた球審は、直ちにその旨を自ら発表するか、または発表させる義務がある。		口指名打者に代走 ■ビジョン表記 ⇒ 「H」⇒ D」	■規則の交代プレーヤーを確認すると守備順、攻撃順の選手交代がある場合は球審にその回通知 球審の代打も交代した選手がイング終了後に守備に入る場合、その表示方法と守備位置を引き継ぐのか、別の位置に入れるのかを規則に通じる。 各打者に代打・代走の交代 ⇒ 「H」表記 ⇒ 「B」イニング終了時に表示
5.11 指名打者	(a) 指名打者ルールは次のとおりである。 (1) (2) (3) (4) 指名打者に代えて代打者を使ってよい。指名打者に代わった打者は、以後指名打者となる。迎えた指名打者は再び試合に出場できない。 (5) 指名打者が守備についてもよいが、自分の番のところで打撃を避けなければならない。 (6) 指名打者に代わって代走者が出走することができるが、その走者が以後指名打者の代わりに走る。指名打者が代走者になることはできない。		※飲食、声援等にて守備交代時のアナウンスが聞きづらいこともあり、ビジョンの衣服が「新入り」である。  指名打者に代打・代走時 「H」「B」のビジョン表記 イニング終了時に 守備位置を表示してもらいたい	※飲食、声援等にて守備交代時のアナウンスが聞きづらいこともあり、ビジョンの衣服が「新入り」 のこともあり、再検討を次年度都市対抗研究会までには結果を出したい。

# 公式記録確認シート



公認確認シート No. 2017\_12

公式記録掲載区分：9.00 記録に関する規則

公認野球規則：その他

■ 確認シート作成日：

平成 年 月 日

■ 確認シート作成対象試合等日

平成 年 月 日

■ 確認シート作成対象試合 大会名等

平成 年 月 日

■ 確認シート作成、報告者等：

日本野球連盟  
規則・審判委員会 公式記録部会 海原和之

プレー状況	公式記録判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム（先攻） ■チーム（後攻）	■公式記録完全マニュアル		■公式記録完全マニュアル	■勝利投手 「W」 ■敗戦投手 「L」 ■完投投手 「Y」
P23	3-3 投手記録選  ■勝利投手 「W」 ■敗戦投手 「L」 ■完投投手 「Y」  とあり、「W」=winning pitcher 「L」=losing pitcher 「Y」=英語は?		P23  3-3 投手記録選  ■勝利投手 「W」 ■敗戦投手 「L」 ■完投投手 「Y」  とあり、「W」=winning pitcher 「L」=losing pitcher 「Y」=英語は?  平成8年4月作成の「日本野球連盟スコア記入要領」(算擇部及記録部会)をベースに作成、調査したが、該当する単語はなし  「W」=winning pitcher 「L」=losing pitcher 「Y」=英語。。。不明 Complete game / CG コアリートゲーム  「完投する」意味のこの言葉しかない	■下記の記号にて整理としたい  完投（かんとう、英：Complete game / CG）とは、 ■野球において、先発投手が試合終了時まで投手交代なく一人で投げることを指す  ○ 完投勝利⇒9回完投しての勝利 ◎ 完投勝利⇒延長回まで完投して勝利 △ 完投勝利⇒コールドゲーム等9回に満たない投球回数で試合を完投した勝利  ● 完投敗戦⇒9回完投しての負投手 ◎ 完投敗戦⇒延長回まで完投し負投手 ▲ 完投敗戦⇒コールドゲーム等9回に満たない投球回数で試合を完投し負投手

⑤資料 - ⑧

公式記録確認シート

公益財団法人 日本野球連盟

公式記録掲載区分：

公認野球規則 10.12 失策

公認確認シートNo.

■確認シート作成日： 平成26年7月24日

■確認シート作成対象試合等月日：

平成26年7月24日

■確認シート作成対象試合 大会名等：

第85回都市対抗

■確認シート作成、報告者等：

公式記録部会長 海原

プレー状況	公式記録員判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム				
■チーム				
H26.07.22 西濃運輸 - 東芝 西濃 森捕手	捕手へのファウルフライ 捕手の目測誤り、 ボールは後方へ落下		10.12 『失策（エラー）』 バッターの打撃の時間差延ばしたり、アウトになるはずのランナーを生かしたり、ランナーに1回以上の進塁を許すようなミスプレイ（例えは、ファンブル・落球・懲送球）をした野手に失策を記録する。  。ただし、本規則で特に規定された場合を除く。 (a)	
H26.07.23 Honda熊本 - MHP S横浜 MHP S横浜 前田捕手	捕手の目測誤り、 ボールは後方へ落下		その後、バッターが1塁を得たかどうかには関係しない。	
H26.07.24 パナソニック - JR東日本 パナソニック 足立捕手	捕手の捕球ミス、 ミットにボール当て、底塁		昭和的了解のもと、ファウルフライを取り扱った場合は、頭脳的判断により確認しなかつた場合と同時に「失策」を記録しない傾向が強い。  頭脳的判断を除き、「左」野手が普通の守備行為でなら捕らえることができたと記録員が判断したときは、失策を記録することを統一見解として周知する。 ファウルフライを信頼したらすべてファウルという概念を捨て去る。	

JABA 公益財団法人 日本野球連盟	公式記録確認シート	■確認シート 作成日 平成 年 月 日		
⑤資料 - ⑨		■確認シート 作成日 平成26年7月24日		
		■確認シート 作成月日 平成26年7月24日		
		■確認シート 作成対象大会名等		
		■確認シート 作成報告者		
プレー状況	公式記録員判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム（先攻）				
■チーム（後攻）				
2016.1末 リトルシニアの審判講習会の際に、 下記の質問。	JABA日本野球連盟 公式記録部会の 見解  結論から 「盗塁と記録する」		2007公認野球規則 10.08 (g) 走者が盗塁を企てた場合、これに対して守備側チームがなんらの守備行為を示さず、無闇心であるときは、その走者には盗塁を記録しないで、野手選択による盗塁と記録する。 【注】たとえば、走者一・三塁のとき、捕手が三塁走者の本塁への突入をおそれて、盗塁しなかったときなどには、たとえ守備行為がなくても、本項を適用しないで、盗塁を記録する。	
◆投手がフレートを踏んだあとに、走者が次の塁に進塁。 投手は気づかなかった（もしくは無闇心だった）	◆2007年までは同項の【注】を根拠に本規定を適用とせず【死文】として盗塁を記録。 2008年規則改正、10.07 (g) に「原注」をつけて無闇心とみなす詳細な条件を加え、同規則を厳格に適用することを決定後も、アマ則としては、※「從前どおりの考え方」を維持していくことが確約され現在に至っているため。		2008公認野球規則 10.07 (g) 走者が盗塁を企てた場合、これに対して守備側チームがなんらの守備行為を示さず、無闇心であるときは、その走者には盗塁を記録しないで、野手選択による盗塁と記録する。 【备注】《新》守備側が無闇心だったかどうかを判断するにあたって、次のような状況を全体的に考慮しなければいけない—イニシング、スコア、守備側チームが走者を間に留めようとしていたかどうか、投手が走者に刈しピックオフプレイを試みたかどうか、盗塁の企てに対して通常は塁に入るべき野手が塁に入る動きをしたかどうか、守備側チームが走者が盗塁が記録されるのを強く阻もうとしたかどうか。 この点、1走者一・三塁で、「走者一が二塁よりおもむろにした場合、もし、守備側に「防ぐ野手の行動があった……」などと、二塁への併殺の際に三塁小走者が本塁へ突入。	
◆この場合、走者の進塁は「盗塁」となるのか 10.07 (g) により盗塁と記録しないで、野手選択による進塁となるのか。			2007年までは同項の【注】を根拠に本規定を適用とせず【死文】として盗塁を記録してきた経過があります。 しかし2008年1月10日に行われたプロ・アマ合同規則委員会において2008年シーズンよりこの野球規則10.07 (g) に「原注」をつけて無闇心とみなす詳細な条件を加え、同規則を厳格に適用することを決定してこのような進塁を盗塁として記録しないことになり、1月28日に野球規則の改正が正式に発表された。	
◆投手は無闇心でも、野手が気づいてベースに入った場合や、あるいはスコアが個塁の場合など、色々なケースが考えられますか、			この改定によりプロ側は野手選択での進塁と盗塁を見極め規則どおり適用していくことになった。アマ側においては「無闇心とみなさざまざまな条件」が、全国各地の多くの記録風の混乱を招く恐れがあるということで、引き続ぎ「從前どおりの考え方」を維持していくことが確認され現在に至っているが、「内規」等に明記されず口頭での周知別項であった。	
アマチュア野球において、どのような基準で盗塁/野選が分かれるのか（あるいは野選が記録されることはないのか）				

(5)資料一 (10)

## 公式記録確認シート

公益財団法人 日本野球連盟

公式記録掲載区分：

公認野球規則 10.02 公式記録報告の件

公認確認シートNo.

■確認シート作成日： 平成26年7月20日

■確認シート作成対象試合等月日：

平成26年7月20日

■確認シート作成対象試合 大会名等：

第85回都市対抗

■確認シート作成、報告者等：

京都府連盟 猪飼

プレー状況	公式記録員判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム 名古屋市 東邦ガス	投手記録の記載方法で、投球イニング記載の方法	甲斐投手 ■7回 と 記載	記録報告については 10.02 (C) (1) 投球した回数 アウト一つを3分の1回とする とあり、 上記規則で、打撃を完了した者の数と解釈 するが、打撃を完了せずに 呆板となつた 場合の扱いについては 提示はない 当初、打撃完了した打者が 存在する場合 のみの裏記という考え方で 「7回」で説明したが、 11球を完了しなかったといえ、3球投じた 実情があるので 0/3 を付与するというNBPの見解を 得て 「7回 0/3」で訂正した。	記録部会見解 NBPの見解もあるが、打撃完了しなかった といえ、「0/3」を付与する マニュアルの記載も追加・変更項目として周 知を図っていく。 公式記録マニュアル P23 II スコア記入要領 3. 記録の算計 3-1. 投手記録 ■投球回数...その回無死で交代の場合 O/3回を記入
■チーム 大阪市 日本生命	名古屋市 東邦ガス甲斐投手は先発し七回まで投げ 八回先頭打者に3球投じたところで呆板 二番手水田投手は その打者をライト フライに打ち取り その打席は 救援投手の打撃完了として 記録された。	上記どちらの記載、記録方法が よいのか意見の相違があつた	上記の記載を ■投球回数...	

(6)資料一 (11)

## 公式記録確認シート

公益財団法人 日本野球連盟

公式記録掲載区分：

公認野球規則 8.00 投手

公認確認シートNo.

■確認シート作成日： 平成26年7月20日

■確認シート作成対象試合等月日：

平成26年7月20日

■確認シート作成対象試合 大会名等：

第85回都市対抗

■確認シート作成、報告者等：

京都府連盟 猪飼

プレー状況	公式記録員判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム 名古屋市 東邦ガス	2球目がファールとなった	正	状況が確認・把握できず混乱した	記録部会より、中本審判部委員長へ報告
■チーム 大阪市 日本生命	カウントは、 1ボール、 1ストライク が、 電光表示板のカウントは、 2ボール、 0ストライク 不正投球のジェスチャー（主審 が行ったが、記録席からの位置で は確認できなかった）や場内アナ ウンスの周知はなかったが、 この状況から不正投球と判断 し、記録録跡 【後に確認、不正投球であった】 打者は、不正投球後の3球目を ライト前ヒットを放つ	△ - - 3	不正投球のジェスチャーは確認できなかっ た。ドームでの公式記録席位置を考えると、 主審のジェスチャーだけでは状況把握困難 控え審判との内線通話での確認方法はある が、試合は進んでしまうので、放振に確認も できないのが実情である。  対応として 観客や記録員等にもハッキリとわかる大き いジェスチャーを行うか、 場内アナウンスによる周知を行ってもらいたい。  東京ドーム、京セラドームの場合は特にグ ランツと記録席との距離があること、また應 援・声援等により確認が困難な状況下におい ては特に留意する。地方球場の場合は、距離 感の問題ないのでジェスチャーにて十分と 思われる。	中本委員長より 不正投球が発生した場合、ジェスチャーによ り周知することは実施している。 しかしながら、球場や公式記録席の位置など の状況によっては情報が伝わらないことがある。 観客や記録員等にもハッキリとわかる大き いジェスチャーを行うよう指導、状況によっては 場内アナウンスによる周知を行っていく。



公益財団法人 日本野球連盟

公式記録掲載区分：

公認野球規則 8.00 投手

公認確認シートNo.

## 公式記録確認シート

■確認シート作成日：平成26年7月20日

■確認シート作成対象試合等月日：平成26年7月20日

■確認シート作成対象試合 大会名等：

第85回都市対抗

■確認シート作成、報告者等：

京都府連盟 猪飼。

プレー状況	公式記録員判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム 名古屋市 東邦ガス	2球目がファールとなった カウントは、 1ボール、 1ストライク が、 電光掲示板のカウントは、 2ボール、 0ストライク	正 △ ● 3	状況が確認・把握できず混乱した 不正投球のジェスチャーは確認できなかつた。ドームでの公式記録席位置を考えると、 主審のジェスチャーだけでは状況把握困難 控え審判との内線通話での確認方法はあるが、試合は進んでしまうので、悠長に確認も できないのが実態である。  対策として 観客や記録員等にもハッキリとわかる大き いジェスチャーを行うか、 場内アナウンスによる周知を行ってもらいたい。  東京ドーム、川セラドームの場合には特にグ ランドと記録席との距離があること、また応 援・声援等により確認が困難な状況下におい ては特に希望する。地方球場の場合には、距離 感の問題もないでジェスチャーにて十分と思 われる。	記録部会より、中本審判部委員長へ報告 中本委員長より 不正投球が発生した場合、ジェスチャーによ り周知することは実施している。 しかしながら、球場や公式記録席の位置など の状況によっては情報が伝わらないことがある。 観客や記録員等にもハッキリとわかる大き いジェスチャーを行うよう指導、状況によっては 場内アナウンスによる周知を行っていく。
■チーム 大阪市 日本生命	9回裏 大阪市の攻撃 一番打者 小田への投球について 1球目 ボール 2球目 ファール この2球目が不正投球			



公益財団法人 日本野球連盟

公式記録掲載区分：

公認野球規則 10.12 失策

公認確認シートNo.

## 公式記録確認シート

■確認シート作成日：平成26年7月24日

■確認シート作成対象試合等月日：平成26年7月24日

■確認シート作成対象試合 大会名等：

第85回都市対抗

■確認シート作成、報告者等：

公式記録部会長 海原

プレー状況	公式記録員判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム				
■チーム	H26_07_22 西濃運輸 一 東芝 西濃 森捕手 H26_07_23 Honda熊本 一 MHP S横浜 MHP S横浜 前田捕手 H26_07_24 パナソニック 一 JR東日本 パナソニック 足立捕手	捕手へのファウルフライ 捕手の目測誤り、 ボールは後方へ落す  捕手の目測誤り、 ボールは後方へ落す  捕手の捕球ミス、 ミットにボール当て、毎球	10・12『失策（エラー）』 バッターの打撃の時間を延ばしたり、アウ トになるはずのランナーを生かしたり、ラン ナーに1個以上の進塁を許すようなミスブレ イ（例えば、ファンブル・落球・悪送球）を した野手に失策を記録する。  ただし、本規則で特に規定された場合を除く。 (a)  その後、バッターが1 塁を博したかどうかには関係しない。  突然的「脱む」と、ファウルフライを取り扱 れた場合は、頭脳的判断により確認しなかつ た場合と同様に「失策」を記録しない傾向が 強い。  頭脳的判断を除き、「注」野手が普通の守備 行為でなら捕らえることができたと記録員が 判断したときは、失策を記録することを統一 見解として周知する。 ファウルフライを落球したらすべてファウル という概念を捨て去る。	



公益財団法人 日本野球連盟

公式記録掲載区分：10.16 自責点

公認野球規則 10.16 自責点 (d) ミスプレイの助けをかりて進塁した走者が得点

公認確認シートNo.

## 公式記録確認シート

■確認シート作成日：平成 27 年 3 月 29 日

■確認シート作成対象試合等月日：

平成 27 年 3 月 28 日

■確認シート作成対象試合 大会名等：

第87回選抜高校野球大会

■確認シート作成、報告者等：

公式記録部会 海原

プレー状況	公式記録員判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム（先攻）松山東高 愛媛	■当初の考え方 ※実際にはミスプレイで二塁へ進塁しているが、次打者の捕打により【ミスプレイで二塁へ進塁した事実は消滅した】と考えた。（実際は三塁に進塁している） よって、二塁上として考慮したことにより、次打者が二塁打を放つため自責点の処理とした。	9番  1番  2番  9番  1番  2番  毎日新聞社 編集局 運動部 原倉聰子 記者	2008年日本アカデミー野球規則委員会 公式記録部会参考資料「公認野球規則補完」から ■ミスプレイの助けを借りた進塁について ※ミスプレイ後、打者の打撃行為で走者が進塁するか否かを決める必要があるが、公認野球規則では明確な規定はない。プロ野球内規をアマチュアでも参考にし、混乱や判定のバラつきをなくすようにした事項。 このような通達類を想い出すことに敬意を表します。 野球連盟としては、各地区連盟公式記録部会に凡例と共に情報共有とし、記録の扱いかましまだにならぬよう努めます。	■日本野球連盟 規則・審判委員会 公式記録部会 部会長 海原和之
■チーム（後攻）東海第四 北海道				
第87回選抜高校野球大会 2015.03.28 松山東(愛媛) 刘 東海第四(北海道)				
2回戦 8回裏 東海第四高の攻撃				
9番 旗瀬 ・遊撃へ打球の打球の内野安打 ・遊撃手一塁への送球がそれた ・遊撃手の失策で二塁へ進塁 ・1番打者の捕打で三塁 ・2番打者の二塁打で得点				
1番 富田 猪打				
2番 金村 左翼線に二塁打を放つ				



公益財団法人 日本野球連盟

## 公式記録確認シート

■確認シート作成日：平成 27 年 3 月 15 日

■確認シート作成 対象試合等月日：

【2015】平成 27 年 03 月 05 日

■確認シート作成対象試合 大会名等：

日本野球連盟 規則・審判委員会 公式記録部会

■確認シート作成、報告者等：

日本野球連盟 規則・審判委員会 公式記録部会

プレー状況	公式記録員判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム（先攻）				
■チーム（後攻）				
2016年度 6.10 (b) (10) が改正 投手が指名打者に代わって打撃するかまたは走者になった場合、それ以後指名打者の役割は消滅する。		打順 位置 (回) 背番 選手名 7 9 33 増野 17 27 37 8 D 10 佐藤 18 H 1 (5回) 18 松坂 28 38 9 5 5 原 19 29 39 10 P 18 松坂	※ 指名打者に代わって、試合に出場している投手が代打となって打撃をする場合のシート記載例とその考え方 ■指名打者 佐藤に、投手の松坂が代打 ■試合に出場している投手は、指名打者にだけ代打になることができる ■試合に出場している投手が代打になった時に 指名打者は消滅するので H 1 と記入 ■イニング終了後、そのまま、投手として出場するならば H 1 の記載 投手以外のポジションにつく場合は段階を替え 守備位置と交代イニングを記入する 例 三塁の守備につく 三塁手に代わり、投手が入る 28 5 (5回) 18 松坂 9 5 5 原 19 1 (5回) 19 田澤	※ 指名打者に代わって、投手が代走となる場合も、同様な記載とします。 ※ 選手交代時のアナウンス (参考例) ■八番 指名打者 佐藤に代わり 代打 松坂 が入ります。 なお、試合に出場している投手が代打となりますので、これ以降 指名打者は消滅します。 ■守備につきます ●チーム 先ほどの回、代打の 八番 松坂 はそのまま投手に入ります ■守備につきます ●チーム 先ほどの回、代打の 八番 松坂 はそのまま サードに入り サード 原 に替わり 投手に 田澤が入ります 八番 サード 松坂 ●●大学 背番号18 九番 ピッチャー 田澤 ●●高校 背番号19



# 公式記録確認シート

■公益財団法人 日本野球連盟

■公式記録掲載区分 :

◆公認野球規則

■公認確認シート No.

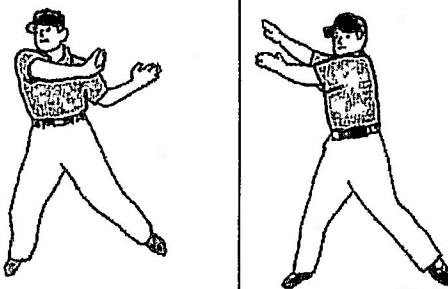
■確認シート 作成日 : 平成 27 年 07 月 26 日

■確認シート 作成対象試合等月日 : 平成 27 年 07 月 26 日

■確認シート 作成対象試合 大会名等 : 第8回都市対抗野球大会

■確認シート 作成、報告者等 :

プレー状況	公式記録員判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム(先攻) 浜松市 ヤマハ	■野手からの送球がそれたため、ベースに触れていた足が離れてセーフになった場合 審判員は『オフザバック』のジェスチャーを行い、送球ボールがそれで、足が離れたためにセーフとなったことを体で説明しています。		■野球規則 10.05 安打の記録 (a)次の場合には安打が記録される。 (1) (2)フェアボールが強すぎるか、弱すぎたため野手がその打球を処理しようとしたがその機会がなくて、バッターが安全に塁に生きた場合。 「付記」例えば、ショートが処理すればアウトにできたかもしれないと思われる打球に対して、サークルが飛び出してデフレクトしたり、あるいは途中でカットして処理しようしたが、結果ブレイクできずに終わるなどの場合などには、安打と記録する。 「注」デフレクトとは、野手が打球に触れて球を逃げ飛ばすか、あるいは打球の方向を変えたことを意味する。 (3)フェアボールが不自然にパウンドしたために野手の普通的の守備では処理することができないか、または野手に触れる前に投手板あるいは各塁(本塁を含む)に触れたために、野手の通常の守備では処理できなくなつてバッターが安全に塁に生きた場合。 (4) (5) (6)打球を扱った野手が先行ランナーをアウトにしようと試みたが成功せず、しかもその打球に対して普通に守備しても、塁でバッターランナーをアウトにできなかつたと記録員が判断した場合。 「付記」本条各項の適用に当たって疑義のあるときは、常にバッターに有利な判定を与える。 打球に対して非常な好守備を行つたが結くブレイクが十分でなくアウトをとることができなかつた場合には、安打を記録するのが安全な方法である。	■審判員のジェスチャーに惑わされることなく判断を 野手からの送球がそれたため、ベースに触れていた足が離れてセーフとなった場合 審判員は『オフザバック』のジェスチャーを行い、送球ボールがそれで、足が離れたためにセーフとなったことを体で説明しています。それがなければ、足が離れなければセーフですよ。恩送球等により一塁に生きたことを表現しているよう見えます。 しかしながら、公式記録員は「このジェスチャーに惑わされることなく」左記の安打の記録、特に(a)(2)や(3)、(6)、「付記」を考慮して判定してください。 審判員のジェスチャーは、あくまでもベース触れていた足が離れたのでセーフと言っているだけであり、打球の強弱や好プレーなどによる体制の崩れなどを考慮してはいけない。 安打、失策の判断・記録は公式記録員が行います。
■チーム(後攻)仙台市 JR東日本東北	平成27年 7月25日  この試合では、審判員の「オフザバック」のジェスチャーが多くみられた。  記録的には、打球の強弱や送球休制の状況などから 記録的には「安打」と記録したが、オフザバックのジェスチャーを見ると違和感があった。			



オフザバックのジェスチャー

プレー状況	公式記録員判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
■チーム(先攻)	※審判団協議の結果から		※公式記録記載方法の情報共有	■審判員の妨害定義 2・44 「インター・フェアランス(妨害)」 (a) 審判員の妨害 (2) 打球が野手(ピッチャーを除く)を通過する前にフェア地域で審判員に触れた場合。
■チーム(後攻)	■打球が二塁塁進に当たった時は「ボールデッド」となる。 5.09(f)		■公式記録部会の考え方 左記シートに記載例を示す 【例として、出塁している選手は、すべて四塁による出塁と定義としています】	■審判員の妨害に関する記録の扱い 5・09 『ボールデッド』 次の場合にはボールデッドとなり、ランナーは1個の進塁が許されるかまたは帰塁する。その間にランナーはアウトにされることはない。 (f) 内野手(ピッチャーを含む)に触れていないフェアボールが、フェア地域でランナーまたは審判員に触れた場合、あるいは内野手(ピッチャーを除く)を通過していないフェアボールが、審判員に触れた場合=バッターがランナーとなつたために、塁を明け渡す試務が生じた各ランナーは進塁。 ■審判員の妨害に関する記録の扱い 10・05 『安打』 (a) 次の場合には安打が記録される。 (5) にて安打と定義されているので 打者には 内野安打の記載で、妨害のXを 特定事項に「X = 二塁空塁」を記載 当然安打と記録されるので、「打点」は付与されるし、この例の場合は自責点対象となります。
平成27年7月6日 NPB ソフトバンク 対 DeNA 得点 2-3 DeNAがリード 7回裏、ソフトバンクの攻撃。 二死満塁で柳田悠岐の打球は二遊間を抜け、外野手の前に転がった。 その間に三塁走者ヒー二塁走者が相次いで本塁に達した。 ※審判団協議	■打者は走者となって一塁が与えられる。その結果塁を明け渡さなければならなくなつた走者は進塁する。 三塁走者には得点が記録される 打者には安打と打点が記録される ■二死満塁から試合再開 ★公式記録員は、上記事項を心 まとめてスコアシートに記載す る。		内野の内側で発生なので 内野安打の記載 妨害のX表示 スナッズもさうだった近くの 昇降板ヘルメット	上記の規則事項を踏まえて、 左記のように、「スコアシートに記入」していくことを統一し、各地区公式記録部長に情報共有とする。

## 公式記録確認シート



公開確認シート No. 2017\_01

公式記録掲載区分：9.00 記録に関する規則

公認野球規則：5.09(b) (9) 【原注】

■ 確認シート作成日：	平成 年 月 日
■ 確認シート作成対象試合等月日	平成 年 月 日
■ 確認シート作成対象試合 大会名等	平成 年 月 日
■ 確認シート作成、報告者等：	日本野球連盟 規則・審判委員会 公式記録部会 池原和之

プレー状況	公式記録箇所判定、判断	スコアーシート記載	疑問事項、確認事項・項目	公式記録部会見解、適用規則
<p>■チーム（先攻） ■チーム（後攻）</p> <p>2017規則改正 5.09 (b) (9) 【原注】を追加する。 【原注】後位の走者の行動または前位の走者の行動によって、後位の走者は前位の走者に先んじたとみなされる場合がある。</p> <p>例 1アウト走者二・三塁のとき、三塁走者（前位の走者）が不塁へ進塁しようとして三塁本塁間のランダウンドプレイとなった。二塁走者（後位の走者）は前位の走者がタッグアウトになると想い、三塁に進んだ。三塁走者は触球されずに、三塁に戻り、左翼方向に塁を拾み越えてしまった。このとき、後位の走者は、前位の走者の行動によって前位の走者に先んじたことになる。結果として、後位の走者はアウトとなり、三塁は占有されていないことになる。前位の走者が三塁を放棄してアウトと宣告されていない限り、前位の走者はアウトになる前に三塁に戻れば三塁を占有する権利がある。5.06 (a) (1) 参照。</p>	<p>2017規則改正 5.09 (b) (9) 【原注】を追加する。 【原注】後位の走者の行動または前位の走者の行動によって、後位の走者は前位の走者に先んじたとみなされる場合がある。</p> <p>記録の例題、記載例として 【前位の走者の行動によって、前位の走者に先んじたことになる。 結果として、審判員が「追い越し」として後位の走者はアウトと判定した場合】</p> <p>記録の例題、記載例として 【前位の走者の行動によって、審判員が三塁走者が「走塁放棄」として、三塁走者をアウトと判定した場合】</p>	<p>(二)  4番打者の打撃により、三塁走者が挟まれて三塁ベースを越え「追い越し」として判定された</p> <p>(三)  「追い越し」として後位の走者はアウトと判定</p> <p>(四)  4番打者の打撃により、三塁走者が挟まれて三塁ベースを越え「走塁放棄」として判定された - X 記号は防衛、放棄で使用</p> <p>レ  「走塁放棄」として三塁走者はアウトと判定 FC 捕殺間の走塁</p>	<p>審判員が ■「追い越し」として後位の走者はアウトと判定した場合 ■「走塁放棄」として、走者をアウトと判定した場合 審判員は、アウトとなる走者に向かってアーチのジェスチャーを行う 中本規則・審判委員長に上記事項について確認した 上記の審判員のジェスチャーにより「追い越しアウト」「走塁放棄アウト」が判明できるので、特に観客への説明は考えてはいけない。</p>	

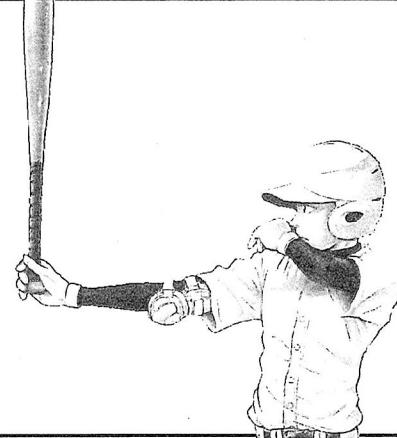
## 2019 野球規則改正 12項目

### 【公式記録に関わる事項の説明と規則適用時の統一】

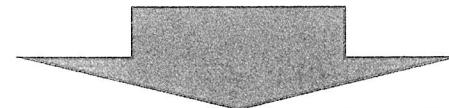
#### 項目 (11)

8.02(c)の末尾に次の文を追加する。

投球カウントの誤りの訂正は、投手が次の打者へ1球を投じるまで、または、イニングや試合の最終打者の場合には守備側チームのすべての内野手がフェア地域を離れるまでに行なわなければならない。



#### 本改正野球規則の適用にあたっての記録員としての注意事項等



8.02(c)の末尾に次の文を追加する。

投球カウントの誤りの訂正は、投手が次の打者へ1球を投じるまで、または、イニングや試合の最終打者の場合には守備側チームのすべての内野手がフェア地域を離れるまでに行なわなければならない。

- アピール(カウント誤りの訂正)ができるのは、守備・攻撃側の両チームはもとより、審判員・記録員も申告、訂正ができる。
- 次の打者へ1球を投じるまで等、カウント誤りの訂正時期は 審判員・記録員も同じに扱う。

■ カウント誤りの訂正が成立した場合は、すべて「打撃が完了した」時点に戻すことになる。よって、投球数や打撃結果等についても、「全てなかつたもの」として記録する。

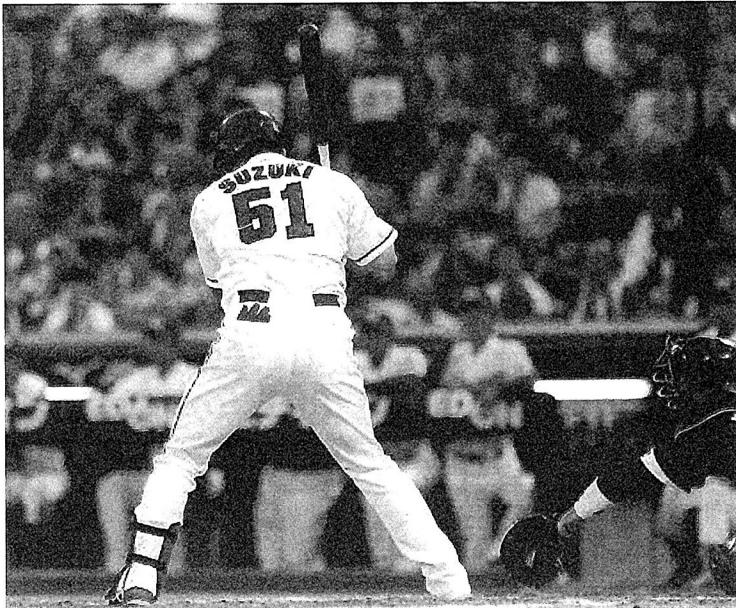
(例 1) 一死、一塁でA打者が「3 - 2」のカウントから、6球目を選び「四球」となったが、気が付かずにそのまま打席にとどまり、次の7球目を打撃して「レフトフライ」となり、二死、一塁となった。

ここで、次の打者へ第1球を投じる前に、攻撃側チームから「カウント誤り訂正」のアピールがあり、認められた。A打者が四球を得た時点で全てを戻し、「一死、一・二塁とし」7球目の投球数も取り消して「投球数6球として」試合再開とした。

- 本アピールプレー等について、観客等に説明が必要と思う場合は「審判員」がマイク等により知らしめることとする。

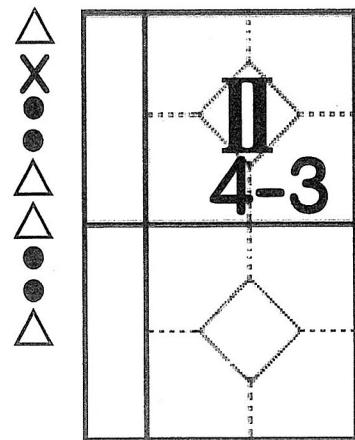
# 3回1死走者なしから広島鈴木の打席でカウント間違いの珍プレー

<広島3 - 2中日> ◇2018. 9日  
◇マツダスタジアム



3回裏広島1死、  
鈴木誠也は 4つ目のボール判定にも歩かず、  
9球目をファウル、  
10球目で ニゴロに倒れる

1	ファール	[ 0 - 1 ]
2	ストライク	[ 0 - 2 ]
3	ボール	[ 1 - 2 ]
4	ボール	[ 2 - 2 ]
5	ファール	[ 2 - 2 ]
6	ファール	[ 2 - 2 ]
7	ボール	[ 3 - 2 ]
8	ボール	[ 4 - 2 ] 四球
9	ファール	[ 4 - 2 ]
10	セカンドゴロ	10球目



中日笠原の投球は7球目まで3ボール2ストライク。  
続く 8球目の内角球を津川球審はボール と判定し、  
四球のはずがそのまま進行 した。  
9球目はファウルとなり、10球目で決着。  
記録はカウント 4 - 2からのニゴロとなった。  
鈴木選手は 「 気づかなかつた。  
ボードが(カウント間違)2 - 2だった、まだ2 - 2 と思っていた」  
津川球審は「僕の勘違い。他の人に言われて気づきました」と申し訳なさそうに話した。

## 9.01 公式記録員

- (b) (1)
- (2)
- (3)
- (4)

記録員は、上記の記録に関する規則により、審判員の裁定に反するようなことはしてはならないし、助言を与えるような項目ではない(四球ではないのに一塁へ、三振でもないのにベンチに下がろうとしたような打者の打撃が完了していない事項でもない等)

よって公式記録は

◆投球数 投手投球数 10球  
◆打撃成績 セカンドゴロ  
打数1、打席1